

植 防 い し か わ

令和3（2021）年3月3日 発行

編集・発行

公益社団法人 石川県植物防疫協会

 金沢市田中町か26－1
 石川県農業共済会館内
 T E L 076-239-1511

印 刷 株式会社 共 栄

No. 156

はじめに

会員の皆様をはじめ、関係機関の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

早いもので令和2年度も余すところ1か月を切りました。すでに来年度の準備に入っている方もいるのではないのでしょうか。当協会でも、新規登録農薬の現地適応性試験（実験展示圃）について実施薬剤を決定する試験委員会の開催、日植防から依頼のあった未登録農薬に係る薬効・薬害試験及び作物残留試験の日程調整、令和2年度第4回理事会（令和3年度予算理事会）の開催など、令和3年度は始動しております。

これからもソーシャルディスタンスを取りながら、皆様と連携を密にして仕事を進めてまいりたいと思います。

令和2年度 殺菌・殺虫剤実験展示圃成績検討会の概要

令和2年11月25日に石川県農業共済会館大研修室において、標記の検討会を開催しました。除草剤の成績検討会と同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、出席者は県農林水産部農業政策課、県農業試験場、県農林総合事務所および当協会に限らせていただきました。

検討会は、水稻・大豆の部では農業試験場中央普及支援センターの猪野雅哉担当課長、野菜の部で同センターの清水恵美担当課長、果樹の部では同センターの中野眞一担当課長の司会・進行で行われました。検討対象薬剤数は、水稻8剤、大豆2剤、野菜11剤、果樹4剤、合計25剤でした。検討結果は次表のとおりです。



作物名	薬剤名	対象病虫害	実施機関	評価	委託メーカー ★連絡窓口会社
水稻	箱大臣粒剤	いもち病 紋枯病類 イネミズゾウムシ	加賀農林事務所 奥能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	住友化学

作物名	薬剤名	対象病虫害	実施機関	評価	委託メーカー ★連絡窓口会社
水稲	エミリアフロアブル	カメムシ類 ツマグロヨコバイ	羽咋農林事務所 珠洲農林事務所	普及性あり 普及性あり	トライ・エミリア普及 会 ★Meiji Seika フ アルマ
	Dr. オリゼリディア 箱粒剤	いもち病 イネドロオイムシ イナゴ	県央農林総合事務所 中能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	オリゼメート普及会 ★Meiji Seika ファル マ
	ルーチンシード FS	いもち病	南加賀農林総合事務所 石川農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	★クミアイ化学 バイエルクロップサイ エンス
	エバーゴルシード FS	紋枯病	南加賀農林総合事務所 中能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	★クミアイ化学 バイエルクロップサイ エンス
	ヨーバルトップ箱粒剤 (通常密度苗箱処理)	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	中能登農林総合事務所 奥能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	バイエルクロップサイ エンス
	ヨーバルトップ箱粒剤 (高密度苗箱処理)	いもち病 イネドロオイムシ	石川農林総合事務所 津幡農林事務所	普及性あり 普及性あり	バイエルクロップサイ エンス
	ヨーバルシード FS	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	南加賀農林総合事務所 県央農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	クミアイ化学
大豆	カスケード乳剤	マメシンクイガ	加賀農林事務所 津幡農林事務所	普及性あり 普及性あり	B A S F ジャパン
	トライトレボン粉剤	紫斑病 フタスジヒメハム シ カメムシ類	石川農林総合事務所 中能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	トライスタークル・ト レボン協議会 ★三井化学アグロ
野菜	シグナム WDG	[ねぎ] べと病	中能登農林総合事務所	普及性あり	B A S F ジャパン
	シグナム WDG	[アスパラガス] 茎枯病	奥能登農林総合事務所	普及性あり	B A S F ジャパン
	アニキ乳剤	[すいか] オオタバコガ	津幡農林事務所	普及性あり	三井化学アグロ
	アニキ乳剤	[だいこん] コナガ ハイマダラノメイ ガ	石川農林総合事務所	普及性あり	三井化学アグロ
	カスミンボルドー	[だいこん] 軟腐病	南加賀農林総合事務所	普及性あり	北興化学
	ベジセイバー	[かぼちゃ] うどんこ病	奥能登農林総合事務所	普及性あり	ベジセイバー普及会 ★北興化学
	グレーシア乳剤	[ブロッコリー] コナガ	加賀農林事務所	普及性あり	日産化学
	パレード20フロアブ ル	[キャベツ] 菌核病	奥能登農林総合事 所	普及性あり	日本農薬
	プロポーズ顆粒水和剤	[ブロッコリー] べと病	珠洲農林事務所	普及性あり	クミアイ化学

作物名	薬剤名	対象病虫害	実施機関	評価	委託メーカー ★連絡窓口会社
	ベリマーク SC	[なかじまな] コナガ アブラムシ類	中能登農林総合事務所	普及性あり	ベリマーク SC 協議会 ★クミアイ化学
	カーニバル水和剤	[トマト] 疫病	南加賀農林総合事務所	普及性あり	協友アグリ
果樹	フルーツガード WDG	[なし] 黒星病 輪紋病	加賀農林事務所 県農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	三井化学アグロ
	キックオフ顆粒水和剤	[かき] カキノヘタムシガ カメムシ類	羽咋農林事務所 奥能登農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	三井化学アグロ
	モベントフロアブル	[ぶどう] アザミウマ類	津幡農林事務所 羽咋農林事務所	普及性あり 普及性あり	バイエルクロップサイ エンス
	カナメフロアブル	[なし] 黒星病	加賀農林事務所 石川農林総合事務所	普及性あり 普及性あり	住友化学

令和2年度 主要病虫害の発生状況

石川県農林総合研究センター 病虫害防除室

水稻（25,000ha）

病虫害名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
育苗期の病害	平年：やや少 前年：やや少	(1) 育苗期の細菌病では、もみ枯細菌病および苗立枯細菌病が少発生した。 (2) ピシウム、フザリウムによる苗立枯病の発生は少なかった。 (3) 苗いもち、ばか苗病の発生が見られた。	(1) 発生は地域が限定されており、育苗管理の不備によるものと考えられる。
葉いもち	平年：やや少 前年：やや少	(1) 本田初発は7月10日（平年6月30日）に確認された。 (2) 梅雨明けは8月1日（平年7月24日）と遅く、7月に感染好適条件が集中し、一部の防除圧の低いほ場で葉いもちが発生した。	(1) 前年の穂いもちの発生はやや少なかった。 (2) BLASTM によるいもち病感染好適日の出現は、6月中旬から7月に集中し平年の3倍を超えたが、それ以外では少なかった。 (3) 梅雨明けは遅かったが、8月以降は記録的な高温多照で推移し、本病の感染・進展は抑制された。 (4) 一方、防除の行き届いていないほ場で局地的に発生が見られた。
穂いもち	平年：やや多 前年：やや多	(1) 葉いもちの発生がほとんど見られなかったほ場でも、穂いもちが急拡大した。	(1) 無農薬栽培や飼料米、及び谷あいの常発ほ場で激発状態になった。
紋枯病	平年：やや多 前年：やや多	(1) 初発は6月30日（平年6月30日）に確認された。	(1) 梅雨明けが遅かったため水平進展が進み、夏季の高温多照により垂直進展が進んだ。
白葉枯病	平年：少 前年：並	(1) 全般的に発生はわずかだった。	(1) 用水路の整備により病原菌の越冬源が減少している。

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
稲こうじ病	平年：少 前年：並	(1) 全般的に発生は少なかった。	(1) 中生の出穂期前後は少雨だった。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	(1) 本田への侵入盛期は5月第4半旬で、発生は平年並であった。	(1) 発生は地域間で差が見られ、一部の山間部でやや多かった。 (2) 予防粒剤が普及し、発生を抑えている。
イネドロオイムシ	平年：やや少 前年：並	(1) 幼虫の加害は6月第2半旬から散見され、発生はやや少なかった。	(1) 全般的に高温多照で推移し、発生は一部の山間部で局地的に見られた以外は少なかった。 (2) 予防粒剤が普及し、発生を抑えている。
ツマグロヨコバイ	平年：やや多 前年：やや少	(1) 本田すくい取りで、6月28日に金沢市及び白山市の定点調査場で初確認した。 (2) 発生量はやや多かった。	(1) 前年の発生が多く、しかも暖冬だったことから発生は多かった。 (2) 前年に被害が発生した所では、畦畔除草、予防粒剤の施用や基幹防除を徹底した。
セジロウンカ	平年：並前年：やや多	(1) 本田すくい取りで、6月17日（平年6月27日）に加賀市及び白山市の定点調査場で初確認した。(2) 発生量は平年並であった。	(1) 6月下旬以降に県内への飛来があったが、飛来量は平年並であった。
コブノメイガ	平年：やや多 前年：多	(1) 7月中、下旬に被害が見られた。 (2) 発生量はやや多かった。	(1) 飛来量はやや多かった。
斑点米カメムシ類	平年：多 前年：やや多	(1) 6月下旬、定点（27地点）の雑草地における生息密度調査で、1地点当たりの平均虫数は平年の1.5倍だった。 (2) 7月下旬、本田侵入調査で、1地点当たりの平均虫数は平年の約5倍であった。特にクモヘリカメムシの発生が多かった。	(1) 発生注意報を発表（7月9日）して防除を呼びかけたが、雑草地及び水田内の生息密度が高かったため、斑点米の発生は多かった。 (2) 斑点米の発生は、クモヘリカメムシが多い山間部や防除が行き届かない市街地等で多い傾向があった。

大麦（1,330ha）

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
赤かび病	平年：少 前年：並	(1) 少発生であった。	(1) 近年、少発生傾向にある。
オオムギ雲形病	平年：少 前年：少	(1) 調査ほ場において発生は認められなかった。	(1) 近年、少発生傾向にある。
裸黒穂病	平年：やや多 前年：やや多	(1) 少発生傾向の中、河北潟で集中的に発生が見られた。	(1) 前年の発生は少なかった。 (2) 以前から、農薬の使用を減らす栽培ほ場が集中する地区で発生が見られていた。 (3) 種子更新や種子消毒がうまくいかなかったと考えられる。
うどんこ病	平年：少 前年：少	(1) 発生は遅く、少なかった。	(1) 近年増加傾向にあったが、防除が徹底されるようになってきた。

大豆（1,660ha）

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：少 前年：並	(1) 発生は少なかった。	(1) 近年、少発生傾向にある。
茎疫病	平年：少 前年：やや少	(1) 発生は少なかった。	(1) 近年、少発生傾向にある。
ハスモンヨトウ	平年：やや多 前年：並	(1) フェロモントラップの誘殺数は、6月以降、平年よりやや多く推移した。 (2) 大豆ほ場の食害は少なかった。	(1) 基幹防除により発生は抑えられた。

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
フタスジヒメハムシ	平年：やや少 前年：並	(1)発生はやや少なかった。	(1)7月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。 (2)播種時処理剤の普及及び8月の基幹防除により発生は抑えられた。
ハダニ類	平年：やや少 前年：やや少	(1)発生はやや少なかった。	(1)7月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。
吸実性カメムシ類	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並であった。	(1)予察灯の誘殺数は、7月下旬頃から増え始め、8月はやや多かったものの、全般に平年並であった。

なし (139ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：並 前年：並	(1)加賀地区の一部で発生が認められた。	(1)平年並の発生で推移した。
黒星病	平年：やや多 前年：やや多	(1)発生は4月下旬で平年よりやや早く、梅雨が長引いたため漸増し、夏季も長く経過した。	(1)4月の低温や長梅雨により増加傾向が続き、8月の高温を経ても発病は抑制されなかった。
ハダニ類	平年：並 前年：やや少	(1)発生は平年並であった。	(1)5月～6月は全般に高温多照傾向で推移し発生が助長されたが、7月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。
カメムシ類	平年：多 前年：やや多	(1)発生は平年、前年より多く、特に、中山間地で多かった。 (2)5月第1半旬～6月第2半旬の水銀灯への飛来数は、クサギカメムシが39頭で平年の約2倍、チャバネアオカメムシが151頭で平年の約3.3倍、ツヤアオカメムシが307頭で平年の約2.36倍多かった。	(1)越冬成虫が多く、しかも暖冬だったことから発生が多く、発生注意報を発表した(6月18日)。 (2)近年、ツヤアオカメムシが増加している。

りんご (50ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：並 前年：並	(1)全般に発生は平年並であった。能登北部で発生が多かった。	(1)防除も含め栽培管理が行き届いていない園で多発している。
褐斑病	平年：やや多 前年：並	(1)能登北部で発生が多く見られた。	(1)防除も含め栽培管理が行き届いていない園で発生が見られる。
ハダニ類	平年：並 前年：やや少	(1)発生は平年並であった。	(1)5月～6月は全般に高温多照傾向で推移し発生が助長されたが、7月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。

ぶどう (164ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：やや多	(1)4月低温時のハウス蒸し込みにより発生が増加した。	(1)4月の低温のためハウスの換気が不十分となり、発生が早まった。

かき (313ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：並	(1)梅雨期にやや進展、夏期の高温は顕著に発病を抑制したが、秋季から再び増加した。	(1)8月下旬以降の気温低下とともに急進展した。
カメムシ類 (クサギカメムシ)	平年：多 前年：やや多	(1)発生は平年・前年より多く、特に中山間地での発生が多かった。 (2)5月第1半旬～6月第2半旬の水銀灯への飛来数は39頭で、平年の約2倍だった。	(1)越冬成虫が多く、しかも暖冬だったことから発生が多く、発生注意報を発表した(6月18日)。

すいか (303ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
つる枯病	平年：やや多 前年：並	(1) 4月低温時のトンネル蒸し込みにより、発生が早まった。	(1) 梅雨明けが遅かったため、病勢進展が継続した。
炭疽病	平年：やや多 前年：多	(1) 6月中旬から7月下旬まで続いた多雨により、病勢進展が継続した。	(1) 梅雨明けが遅かったため、病勢進展が継続した。
アブラムシ類	平年：並 前年：やや少	(1) 発生は平年並であった。	(1) 5月～6月は全般に高温多照傾向で推移し発生が助長されたが、7月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。

夏秋きゅうり (63ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：並 前年：並	(1) 発生は平年並であった。	(1) 夏季の高温傾向により、発生は抑制された。

冬春トマト (24ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：少 前年：やや少	(1) 4月中旬から発生が認められたが、大きな進展はなく少発生で推移した。	(1) 5月の好天により、ハウスの換気も促進された。

秋冬ダイコン (280ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
コナガ	平年：やや少 前年：並	(1) フェロモントラップの誘殺数は平年並であったが、調査ほ場における発生はやや少なかった。	(1) 5月～6月は全般に高温多照傾向で推移し発生が助長されたが、7月の多雨・日照不足により発生は抑えられた。

夏秋キャベツ (14ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ヨトウガ	平年：やや少 前年：並	(1) フェロモントラップの誘殺数及び調査ほ場における発生は平年並であった。	(1) ハスモンヨトウ等の他のヨトウムシ類の発生が多く、それらの防除により、ほ場での本虫の発生は抑えられた。

夏ねぎ (30ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：やや少 前年：並	(1) 発生はやや少なかった。	(1) 近年、少発傾向にある。

きく (4ha)

病害虫名	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：やや少 前年：やや少	(1) 発生はやや少なかった。	(1) 梅雨明けは遅かったものの、8月の高温・多照により発生は抑制された。



編集後記

この1年は新型コロナウイルスに明け暮れていたように思います。仕事のやり方、進め方などこれまでの慣習が大きく変わったものがたくさんあったのではないのでしょうか。まさに歴史に残る1年でした。当協会でもこの3月にZoomによるWeb会議を実施する予定です。今後、会員の皆様との情報交換が早く便利にできるよう努めてまいりたいと思っています。